

令和8年度

シラバス（普通教科）

～ 3 年 ～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

3年 普通教科

- 1 国 語
- 2 地歴公民
- 3 数 学
- 4 理 科
- 5 保健体育
- 6 外 国 語

<h1>現代の国語</h1>	単 位	4 単 位
	学科・学年・学級	農林技術科 生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 実社会で必要な国語の知識や技能を育成する。 2. 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3. 言葉が持つ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書・副教材等	新編 現代の国語 改訂版 (大修館書店) 国語必携パーフェクト演習 (尚文出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	ことばをひらく 日本語を使いこなす 声を意識しよう 正しく書こう 正しく読もう ことばを選んで話そう 文を整え、文をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> 主張と根拠などの関係について理解し、文章の種類をふまえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 話し言葉や書き言葉の特徴や役割、特色などをふまえ、明快さ、適切さなどに配慮した表現について理解し、考えなどが的確に伝わるよう、発声のしかたや文章の種類、語句などの表現を工夫している。 日本語を使いこなす上で必要なことがらを身に付けるため学習に粘り強く意欲的に取り組もうとしている。 	
2 学 期	わかりやすく説明する 実用文を読もうー葉の説明書 絵や写真を説明しよう 伝わるように話そう 聞き取りのレッスン 聞き上手になろう 進路決定までの体験を先輩に伝えよう 情報と向き合う	<ul style="list-style-type: none"> 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 正確で明快に説明する文章を書くことや伝わりやすい話し方、話の構成や展開の工夫に意欲をもち、積極的に学習活動に取り組もうとしている。 話し言葉の特徴や表現の特色をふまえ、必要な情報を意識しながら聞き、情報を適切に整理することをとおして「聞くこと」の大切さを理解し、聞き取りの学習活動に積極的に取り組もうとしている。 主張と根拠など情報と情報との関係及び情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解を深め使っている。 	
3 学 期	社会に目を向けて 自分の考えをつくるために	<ul style="list-style-type: none"> 例示や言い換えなどの述べ方を理解し、筆者の主張とその根拠の関係を理解し、具体例や文章の構成についてとらえ、文章の内容をふまえて自分の考えを深めている。 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 進んで文章の内容をとらえようとするとともに、自分の考えをもち、意欲的に伝えようとしている。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能 知識・技術	実社会での言語生活に必要な国語の知識や技能、語彙力や言語感覚を身に付けることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況 発表の内容やしかた 配布物の管理 課題やレポートの内容や提出状況 言語活動への取組
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。	
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を持つことができたか。	
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>歴史総合</h1>	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	農林技術科・生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を日本の歴史と関連づけながら理解を深める。人類の課題を政治・経済・社会・文化・生活などの観点から多角的に考察することによって歴史的思考力を養う。
使用教科書・副教材等	・教科書：『わたしたちの歴史総合 改訂版』（清水書院） ・副教材：『わたしたちの歴史総合 改訂版 ワークノート』（清水書院）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学 期	近代化と私たち ・近世の日本と世界 ・日本の開国とその影響 ・国民国家の形成と国民統合 ・列強による帝国主義	・江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点（内患外憂）について考え、産業革命やフランス革命が起きた背景や影響について着目させる。 ・明治新政府が中央集権や富国強兵を勧めるためにおこなった政策に着目させる。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査
2 学 期	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦 ・ファシズムの台頭 ・アジア太平洋戦争 ・戦争が変えた人々の暮らし グローバル化と私たち ・冷戦下の地域紛争 ・戦後の日本とアジア諸国	・第一次世界大戦の前提となる国際関係について、多面的・多角的に考察させ、国際秩序がどのように変化したのかまた原因は何かを多角的に考察させる。 ・ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのか考える。 ・米ソの対立から冷戦がはじまったことや対立の理由を多面的に考察させる。 ・GHQの政策と日本国憲法の制定について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査
3 学 期	グローバル化と私たち ・冷戦の終結 ・地域統合の進展と課題 ・冷戦終結後の紛争と平和への取り組み	・冷戦終結後のグローバル化している国際社会について、その歴史的背景をふまえてその問題点や解決方法を考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について、基本的事柄を理解し、その知識を身に付けているか。 歴史的な事象を追求する方法を身につけることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや定期考査 ・ノートの状況 ・発表の内容やしかた ・配布物の管理 ・課題やレポートの内容や提出状況
思考・判断・表現	歴史的な事象から課題を見出し、世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界史的視野にたって多面的・多角的に考察できるか。	
主体的に学習に取り組む態度	歴史的な事象に対する関心と課題意識を高め、授業に意欲的に取り組んでいるか。 国際社会に主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとする姿勢があるか。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>数学 A</h1>	単 位	3 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科・農林技術科 3 学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 数学 I の内容を復習することによって進路に必要な知識を身につける。 2 数学 A を学ぶことによって、考える力や創造する力を高める。
使用教科書・副教材等	高校数学 A (実教出版) 高校数学 A スタディノート (実教出版) 実践テスト形式ベストステップ数学」I・A (浜島書店)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	数学 I の復習 実数の計算・比と歩合・整式 乗法公式・因数分解 関数とグラフ・2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 1次方程式・連立方程式 2次方程式・不等式・連立不等式 図形と計量・面積・体積・文章題 データの分析	これまで学習した内容を総復習することで、基礎的な公式や定理を確認する。基本的な計算問題を解くことによって、進路に必要な問題が確実に解けるようになる。	教材に「ベストステップ」を使用する。
2 学 期	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 2 節 確率	場合の数を数えあげられる。樹形図がかかる。 集合とその要素の個数について理解する。 順列の意味がわかり、計算できるようになる。重複順列、円順列を理解する。 いろいろな組合せの総数を計算できる。また、最短距離の道順など、順列の考え方で色々な場合を計算できる。 確率の基本的な考えが理解し、いろいろな事象の確率を計算できる。 余事象を利用する確率が理解し、利用できる。 独立な試行の意味を理解し、反復試行の確率の計算できる。 期待値の意味を理解し、その値を計算し利用できる。	教科書「高校数学 A」・副教材「スタディノート」を使用する。
3 学 期	2 章 図形の性質 1 節 三角形の性質 2 節 円の性質 3 節 作図	三角形のさまざまな性質を理解することができる。 円のさまざまな性質を理解することができる。 コンパスと定規を用いて、基本的な図形の作図ができる。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真剣に授業を受けようとする態度ができたか。 ・ 教科書、就職問題集、筆記用具がきちんと準備できていたか。 ・ 課題や提出物を指定された日までに提出したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での発言や板書や学習態度 ・ 定期考査 ・ 提出物の内容や提出状況 ・ 課題問題 ・ 授業態度 ・ プリントや問題集のとりくみ状況 ・ 提出物の提出状況
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の例題が理解できたか。 ・ 公式や定理が理解できるか。 ・ 学習した内容を説明できるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中、学習内容の説明を聞き、それに関する発言や質問を積極的にすることができたか。 ・ 学習内容の定着のため、復習を中心に充実した家庭学習を行ったか。 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>化学基礎</h1>	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	農林技術科・生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	・主体的に物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
使用教科書・副教材等	・教科書 高校化学基礎 visual (実教出版) ・副教材 高校化学基礎 カラーノート 改訂版 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1 学 期	序章 化学と人間生活 1章 物質の構成 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子 2章 物質と化学結合 1節 イオン結合	・身近な物質を探究する活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。 ・物質の分離や精製などの実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。 ・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査 ・実験レポート
2 学 期	2節 共有結合 3節 金属結合 3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 2節 酸と塩基 3節 酸化還元反応	・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 ・金属結合及び金属の性質を理解する。 ・物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係を理解する。 ・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 ・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また、酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査 ・実験レポート
3 学 期	終章 化学が拓く世界	・化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査 ・実験レポート

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」(職業に関する各教科については「知識・技術」)、「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能 知識・技術	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況 ・ 発表の内容やしかた ・ 配布物の管理 ・ 課題やレポートの内容や提出状況
思考・判断・表現	観察、実験などを行い、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。	
主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>体育</h1>	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科・生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて計画的に運動ができる資質や能力を習得する。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育（大修館）・アクティブスポーツ（大修館）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	体づくり運動 体ほぐしの運動 選択Ⅰ(球技) バレーボール バドミントン ソフトボール 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うこと。 ・バレーボールとバドミントンは、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 ・ソフトボールでは、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作、状況に応じた守備などによって攻防を展開できる。 1 技能と体力の関係やそれらを高めるときに気をつけるべき点を挙げて説明できる。 2 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたと用具の改良やメディアの発達などによる技術・戦術・ルールの変化を説明できる。 	
2 学 期	陸上競技 体づくり運動 実生活に生かす運動の計画 選択Ⅱ バスケットボール ソフトボール テニス 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。 ・ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むこと。 ・バスケットボールでは、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。 ・ソフトボールでは、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開できる。 ・テニスでは、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 3 技能がどのようなステップを経て上達するかと練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかを挙げて説明できる。 	
3 学 期	選択Ⅲ サッカー バドミントン テニス 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーでは、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携したうごきによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。 ・バドミントンとテニスでは、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 4 体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかとよい動きを支える調整力について例を挙げて説明できる。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・運動の多様性や体力の必要性について理解しているか。・運動の技能が身に付いているか。	<ul style="list-style-type: none">・ワークシート・実技テスト・話し合い活動・レポート・授業態度
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・課題を発見し、解決に向けて思考・判断しているか。・自己や仲間の考えたことを他者に伝えられているか。	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・準備、片付け等仲間と協力して行っているか。・健康・安全を確保しているか。	
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

英語コミュニケーションⅡ	単 位	3 単 位
	学科・学年・学級	農林技術科・生活情報科 第 3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	<p>1. 「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を発展的に扱う科目です。中学校の復習と高校新出を織り交ぜながら、英語の基礎・基本をさらに学んでいきます。</p> <p>2. 英語を通じて、積極的に人とコミュニケーションを図ろうとするとともに、得た情報や考えなどを的確に理解したり、伝えたい情報や考えなどを適切に相手に伝えたりするための、基礎的な能力を伸ばすことを目標とします。</p>
使用教科書・副教材等	<p>・教科書：Amity English Communication II (三省堂)</p> <p>・副教材：Prep English ブレップイングリッシュ [改訂版] (旺文社)</p>

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	<p>・ GET READY 1～4</p> <p>・ LESSON 1 Okinawa</p> <p>・ LESSON 2 The History of Japanese Food</p>	<p>・ Be 動詞、一般動詞、主な文構造 (5 文型)、助動詞、名詞の複数形、代名詞、不定詞、動名詞、受動態、比較など既習事項が定着している。</p> <p>・ Be 動詞、一般動詞の現在形、助動詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、旅行で行ってみたい場所について、場所や理由を紹介しようとしている。</p> <p>・ Be 動詞、一般動詞の過去形や動名詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、友達の好きな食べ物について理由や考えを紹介しようとしている。</p>	<p>夏季課題 ブレップイングリッシュ</p>
2 学期	<p>・ LESSON 3 Volunteer Work</p> <p>・ LESSON 4 Gacha-gacha</p> <p>・ LESSON 5 Interesting Aquariums</p>	<p>・ 不定詞や受動態を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、参加してみたいボランティアについて理由や考えを書いて伝えようとしている。</p> <p>・ SV00 の文や SVOC の文を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、ガチャガチャにあったら嬉しいものについて理由や考えを説明しようとしている。</p> <p>・ 形式主語 it や形式目的語 it について理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、水族館と動物園のどちらが好きかについて、理由や考えを説明しようとしている。</p>	<p>冬季課題 プリント</p>
3 学期	<p>・ LESSON 6 The Relay of Ahmed's life</p> <p>・ LESSON 7 Artificial Intelligence</p>	<p>・ 知覚動詞や使役動詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、パレスチナとイスラエルの問題について考えや気持ちを発表しようとしている。</p> <p>・ 接続詞や前置詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。また、自分がほしい AI ロボットについて考えや気持ちを絵を使って説明しようとしている。</p>	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」(職業に関する各教科については「知識・技術」)、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能 知識・技術	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付け、その背景にある文化などを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況
思考・判断・表現	日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを理解している。また、日常的な話題について、情報や考えなど自分の伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の内容やしきた ・ 配布物の管理 ・ 課題やレポートの内容や提出状況
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。また、誤りを恐れずに、英語を使おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の取組状況
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

